

**#学部別公開ガイダンスを開催**  
七月二十一日と二十二日の二日間、本学への進学希望者を対象に、公開ガイダンスが開催された。学部独自の的方法により、受験生に説明したり個々の相談を行ったり、両日で六四二名の高校生が参加した。

**#広島大学原爆死没者追悼式開かれる**

広島に原爆が投下されて四十九年、広島大学原爆死没者追悼の碑が建立されて二十年目を迎える今年も、八月六日、広島大学学生会館中庭の追悼碑の前で、原爆死没者追悼式が行われた。

追悼式には、遺族及び同窓会代表並びに学長をはじめ部局長等内外の関係者約百名が参列し、千二百十四名の霊前において、死没者名簿の奉納、黙とう、学長の式辞、献花及び献水がおごそかに執り行われた。

今年も、広島大学原爆死没者調査委員会の調査の結果、二十二名の死没者が判明し、「追悼之碑」に合祀した。

式典に引き続き、旧理学部横の「広島文理科大学・広島高等師範学校 原爆死没者遺骨埋葬の地」の石碑に関係者が参列して、献花及び献水を行った。

なお、学長は式辞の中で、追悼碑についてはこの地に残し、永遠に追悼していくことを御霊に報告した。  
(庶務部庶務課)



**#南方特別留学生「故ニック・ユソフ氏」の墓前法要**

八月六日 またあの暑い夏を迎え、佐伯区五日市の光禪寺では、当時、南方特別留学生として広島文理科大学に留学していた被爆死した、マレーシアの故ニック・ユソフ氏の墓前法要が執り行われた(世話人 菅野義信名誉教授。学長部長をはじめとする学内関係者、マレーシアからの留学生、故ユソフ氏のゆかりのかたがた約二十名が列席し、故ユソフ氏の冥福を祈った。

**#「広島大学総覧一九九四 資料でみる広島大学」刊行される**

広島大学自己点検・評価委員会(委員長:理学部牟田泰三教授)では、小委員会のなかに資料集作成部会(部会責任者:教育学部吉森 護教授)を設け、自己点検・評価作業の一環として、広島大学の組織及び活動状況を概観するためのデータ集を編纂することになった。昨年の十一月から鋭意作業を進めていたが、六月、刊行にこぎつけた。

これに伴い、昭和二十四年、本学創設とともにほぼ二年ごとに刊行されてきた「広島大学一覽」は廃刊となった。  
装丁はA4版四六五ページで、千三百部印刷され、学内はもとより各国立大学など関係機関に配布された。



**#原田学長、国際交流基金に寄付**  
去る五月三十一日(火)、広島フエニックスホールで行われた「原田康夫テノール・リサイタル」には、音楽愛好家約千五百人が詰めかけ、三階席まであるホールを満席にした。

今回のリサイタルは、学長就任一周年を記念し、同氏の誕生日に合わせて企画されたもの。

学長は、リサイタルが成功裡に終了し、多くの人々が参加してくれたことに深く感銘し、今回の収益金の一部を大学に寄付することを申し出た。

学長は、常々、本学の国際交流の重要性を説いており、国際交流奨励のためにと百五十万円を寄付した。

事務当局では、寄付の趣旨を生かした有益な使用法について、鋭意検討を進めている。  
(庶務部国際交流課)

**#終戦記念日の八月十五日(月)、広島アジア競技大会FM放送局「あ・ポック767」で本誌が紹介される**  
紹介されたのは「ミニコミWatching」のコーナーで、午前八時三十四分から十五分間にわたって放送された。

紹介された内容は、「大学改革の意義」から教育改革の必要性について、「豊かなキャンパスライフ」から「お酒は楽しく、気飲みは死を招く」が、「留学生の眼」から「日本の七章」が紹介された。

「広島アジア競技大会FM放送」は、十月に開催される第十二回アジア競技大会を機に開設されたもので、大会開催中は、競技予定・見どころ・結果速報はもちろんのこと、観戦に役立つ交通情報・天気予報・大会組織委員会からのお知らせなどが放送される予定。また、開催までの期間は、市民の生活情報に加えて、大会の意義や、開会までの進捗状況や参加国・選手への紹介など、もっぱら開催の機運を盛りあげるとともに、DJをはじめスタッフなど広く市民の参加を呼びかけ、競技とは別の、多くの人たちがアジアの国々や人々を理解し、信頼と友情を築くための機会づくりをねらっている。

開局期間は七月十六日から十月十六日までの九十三日間。放送時間は午前七時から午後九時まで。周波数は七六・七メガヘルツで、広島市及びその周辺(四市十二町村、およそ四十四万世帯)に送信されている。

今回の企画は、本学のフエニックス放送研究会の学生四名が技術スタッフとして参加しており、そのうちの三宅君の紹介で実現したもの。

**#工学部 長町教授及び生物生産学部 吉田講師、学会賞等を受賞**

工学部の長町三生教授が安全人間工学国際賞を日本人として初めて受賞する